

for.

DIALOG(R)File 351:Derwent WPI
(c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

003235426

WPI Acc No: 1981-95984D/ 198152

**Water based recording liq. - contains pigment, high molecular wt.
dispersing agent and nonionic surfactant**

Patent Assignee: CANON KK (CANO)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 56147871	A	19811117				198152 B

Priority Applications (No Type Date): JP 8051899 A 19800417

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 56147871	A	10		

Abstract (Basic): JP 56147871 A

The recording liq. comprises water based medium which contains at least pigment, high molecular dispersing agent and a nonionic surfactant. The high molecular dispersing agent is a polymer which has a hydrophilic structure part and a hydrophobic structure part. Even when the recording liq. is stored for a long time at low viscosity zone, pigment particles do not coagulate or precipitate. It has viscosity, surface tension, electro-conductivity, etc. to match a wide range of recording liq. emitting conditions. It does not clog ink jetting appts.

It fixes fast and surely to paper, film, etc. and the periphery of dot is smooth and no bleeding is observed. Colour of recorded figure is clear and highly concentrated. The recorded figure is excellent in water resistance and light resistance. The recording liq. does not corrode material around it (vessel, etc.). It has little odour and toxicity and low flammability.

Title Terms: WATER; BASED; RECORD; LIQUID; CONTAIN; PIGMENT; HIGH;
MOLECULAR; WEIGHT; DISPERSE; AGENT; NONIONIC; SURFACTANT

Derwent Class: G02

International Patent Class (Additional): C09D-011/00

File Segment: CPI

Manual Codes (CPI/A-N): G02-A04A

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭56—147871

⑮ Int. Cl.³
C 09 D 11/00

識別記号
1 0 1

庁内整理番号
7455—4 J

⑯ 公開 昭和56年(1981)11月17日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 10 頁)

⑰ 記録液

⑰ 特 願 昭55—51899

⑱ 出 願 昭55(1980)4月17日

⑲ 発 明 者 太田徳也
東京都大田区下丸子3丁目30番
2号キャノン株式会社内

⑲ 発 明 者 栄田毅
東京都大田区下丸子3丁目30番
2号キャノン株式会社内

⑲ 発 明 者 矢野泰弘
東京都大田区下丸子3丁目30番

2号キャノン株式会社内

⑲ 発 明 者 松藤洋治
東京都大田区下丸子3丁目30番
2号キャノン株式会社内

⑲ 発 明 者 春田昌宏
東京都大田区下丸子3丁目30番
2号キャノン株式会社内

⑲ 出 願 人 キャノン株式会社
東京都大田区下丸子3丁目30番
2号

⑲ 代 理 人 弁理士 丸島儀一

明 細 書

1. 発明の名称

記録液

2. 特許請求の範囲

少なくとも顔料、高分子分散剤、非イオン性界面活性剤を含有する水性媒体から成ることを特徴とする記録液。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、記録液を記録ヘッドの吐出オリフィスから吐出させ、液滴として飛翔させて記録を行う、所謂、インクジェット記録方法に適用される顔料系記録液に関する。

現在知られる各種記録方式の中でも、記録時に騒音の発生がほとんどないノンインパクト記録方式であって、且つ、高速記録が可能であり、しかも、普通紙に特別の定着処理を必要とせず、記録の行なえる所謂インクジェット記録法は、極めて有用な記録方式であると認められている。インクジェット記録法に就いては、これ迄にも様々な方式が提案され、改良が加えられて商品

化されたものもあれば、現在もなお、実用化への努力が続けられているものもある。

このインクジェット記録法は、インクと称される記録用液体の小液滴 (droplet) を種々の作用原理で飛翔させ、それを紙等の被記録部材に付着させて記録を行なうものである。そして、このインクジェット記録法に於いては、いくつかの液滴形成方式が採用されている。

その一例を第1図に示す。

即ち第1図の装置はピエゾ振動子を有する記録ヘッド部に記録信号を与え、該信号に応じて記録液の液滴を発生させて記録を行なうものである。第1図において、1は記録ヘッドで、ピエゾ振動子2 a、振動板2 b、記録液の流入口3、ヘッド内の液室4及び吐出口 (吐出オリフィス) 5を有している。液室4内には貯蔵タンク6に貯えられた記録液7が、供給管8によって導入されている。尚、供給管8の途中には場合によって、ポンプ或いはフィルター等の中間処理手段9が設けられることもある。そしてピ

エゾ振動子2aには、信号処理手段(例えばパルス変換器)10によって記録信号8からパルスに変換された信号が印加され、該信号に応じて液室4内の記録液に圧力変化が生ずる。その結果、記録液7は吐出オリフィス5から液滴11となって吐出し、被記録材12の表面に記録が行なわれる。

又、上記の装置以外にも種々のタイプの装置が知られており、例えば、第2図に示す様に、第1図の変形例として液室4をノズル状にし、その外周部に円筒状のビエゾ振動子を設置した装置がある(この装置に於ける液滴の発生の機構は、本質的に第1図に示した装置と同じである)。又、帯電した液滴を連続的に発生させ該液滴の一部を記録に使用する装置。或いは又、記録ヘッドの室内の記録液に記録信号に対応した熱エネルギーを与え、該エネルギーにより液滴を発生させる装置等も知られている。

その1例を第3-a図、第3-b図、第4図に示す。

たマルチヘッドの外観図を示す。該マルチヘッドはマルチ溝26を有するガラス板27と、第3-a図に説明したものと同様の発熱ヘッド28を接着してつくられている。

なお、第3-a図は、記録液流路に沿ったヘッド13の断面図であり、第3-b図は第3-a図のA-B線での切断面である。

叙上のインクジェット記録法に適用するインクは基本的に染料とその溶媒とから組成されるものであり、その記録液物性は、前記染料固有の性質に左右されるところが大である。従って、従来、主として水溶性の染料を含む記録液を用いたインクジェット記録を行なった場合、得られた記録画像が、水溶性染料の物性に左右されると言う欠点があった。又、この様な水溶性染料を含んだ記録液自体の保存安定性も然程高くない。そこで最近では、この様な染料系のインクに代えて、顔料系記録液をインクジェット記録方式に適用する試みが為されている。この

ヘッド13は記録液を通す溝14を有するガラス、セラミックス、又はプラスチック板等と、感熱記録方式に用いられる発熱ヘッド15(図では薄膜ヘッドが示されているが、これに限定されるものではない)とを接着して得られる。発熱ヘッド15は酸化シリコン等で形成される保護膜16、アルミニウム電極17-1、17-2、ニクロム等で形成される発熱抵抗体層18、蓄熱層19、アルミナ等の放熱性の良い基板20より成っている。

インク21は吐出オリフィス22まで来ており、圧力Pによりメニスカス23を形成している。

今、電極17-1、17-2に電気信号が加わると、発熱ヘッド15のPで示される領域が急激に発熱し、ここに接しているインク21に気泡が発生し、その圧力でメニスカス23が突出し、記録液21が吐出オリフィス22より記録小滴24となり、被記録材25に向って飛翔する。第4図には第3-a図に示すヘッドを多数並べ

顔料系の記録液には、得られた記録画像の耐光性や耐水性が、上記染料系の記録液による画像に較べて極めて良好であると言う利点が認められる。しかしながら、顔料は記録液媒体に不溶性であるが故に、それを記録液中に微分散する上で高度な技術を要すると共に、その分散安定性を高めることは、非常に困難なものである。にも拘らず、インクジェット記録方法に就いては、用いる記録液に対して、

吐出条件(圧電素子あるいは発熱ヘッドの駆動電圧、駆動周波数、吐出オリフィスの形状と材質、吐出オリフィス径等)にマッチングした液物性(粘度、表面張力、電導度等)を有していること。

長期保存に対して安定でインクジェット装置の目詰まりを起さないこと。

被記録材(紙、フィルム等)に対して定着が速く且つ確実であって、しかもドットの周辺が滑らかでにじみの小さいこと。

形成された記録画像の色調が鮮明で濃度が高

いこと。

形成された記録画像の耐水性・耐光性が優れていること。

記録液周辺材料（収容器、連結チューブ、シール材等）を侵さないこと。

臭気、毒性が少なく、引火性等の安全性に優れたものであること、等の諸特性を備えることが要望される。しかし、上記の様な諸特性を同時に満足させることは相当に困難である。前記した従来技術は、この点で、未だ、不満足なものであった。

本発明は、前述した従来技術の欠点を除き、吐出安定性、長期保存安定性、定着性、画像の濃度、鮮明度、耐水性、耐光性を同時に満足し、更には臭気、毒性がなく、引火性等の安全性に優れた実用性の高い記録液を提供することを目的とするものである。

而して、斯かる本発明の記録液は、高分子分散剤および非イオン性界面活性剤を含む水性媒体中に顔料微粒子を分散して成ることを特徴と

い。以上の如き諸特性は吐出安定性に大きく拘る問題で非常に重要である。

一方、被記録体への記録に於る定着性も重要である。即ち、インクジェット記録方法は高速記録が特徴で、記録液滴は連続的に被記録体上に付着し、しかも極めて速い速度で付着し画像を形成する。高速で記録された画像が未定着で手にされると、未定着の記録液は、手あるいは被記録体の汚れの原因となる。更に被記録体上に於て未定着の記録液滴上へ後から別の記録液滴が高速度で飛翔して衝突すると、該液滴の飛び散り等を生じ被記録体を汚すことになる。この問題はカラー画像形式に於て非常に重要となり、記録液の定着性は従来の顔料系記録液に無い問題を有している。

そこで、本発明に於ては、斯る問題を解決するため、分散媒の第1成分として高分子分散剤を用い、その第2成分として非イオン性界面活性剤を用い、更にその第3成分として水性媒体を使用する。この分散媒は約1～20 cpsの

するものである。

ここで、本発明に於る顔料系記録液に就いて詳細に説明する。

顔料粒子は水等の溶媒中に溶解しない為、それを単に記録溶媒中に混合分散しても、直ちに凝集や沈降を生じて、溶媒から分離するので、実用可能な記録液を組成することはできない。従って、この様な顔料系の記録液を組成する際には、顔料粒子に対する良好な分散媒が必要とされる。特にインクジェット記録方法に適用される場合には顔料粒子が単に安定して分散しているだけではなく、従来の分散系に無い環境の急激な変化に対しても安定でなくてはならない。例えば、圧電素子あるいは発熱ヘッドの駆動に於る^{振動}衝撃波あるいは急激な温度上昇による熱^{衝撃}等に対し顔料粒子は凝集することなく安定して分散していなければならない。

また、記録装置に於いて、記録液が供給系の細管中を流れる場合に管の材質、径に対し安定して円滑に流れ、凝集等を引き起してはならな

粘度範囲に於て、極めて安定に顔料粒子を分散させ得る。上記分散媒の第1成分として使用する高分子分散剤は、親水性構造部分と疎水性構造部分とを共に有する重合体であるならば有効に使用し得る。

該重合体としては、主に付加重合性ビニル基を有するモノマー（単量体）の重合体であり、カルボン酸基、スルホン酸基、硫酸エステル基等の親水性構造部分が、所定量のアクリル酸、メタクリル酸、クロトン酸、イタコン酸、イタコン酸モノエステル、マレイン酸、マレイン酸モノエステル、フマル酸、フマル酸モノエステル、ビニルスルホン酸、スルホエチルメタクリレート、スルホ⁷プロピルメタクリレート、スルホン化ビニルナフタレン等の α 、 β -不飽和モノマーを用いて重合体構造中に導入される。

他方、疎水性構造部分を導入するモノマー単位としては、スチレン、スチレン誘導体、ビニルナフタレン、ビニルナフタレン誘導体、及び α 、 β -エチレン性不飽和カルボン酸の $C_8 \sim C_{18}$ の

脂肪族アルコールエステルが最も望ましい。
又、上記モノマー単位に加えて、例えばアクリロニトリル、塩化ビニリデン、叙上以外の α 、 β -エチレン性不飽和カルボン酸エステル、酢酸ビニル、塩化ビニル、アクリルアミド、メタクリルアミド、ヒドロキシエチルメタクリレート、ヒドロキシプロピルメタクリレート、グリシジルメタクリレート、N-メチロールアクリルアミド、N-ブトキシメチルアクリルアミド等を使用することができる。

ところで、本発明に於ては、この重合体を第3成分である水性液体に可溶化するかコロイド状に分散させる目的で、重合体の塩を形成することが必要である。上記重合体と塩を形成する相手としては、アルカリ金属であるNa、K、その他、モノ-、ジ-或はトリ-(メチルアミン)、モノ-、ジ-或はトリ-(エチルアミン)等の脂肪族アミン、モノ-、ジ-、或はトリ-(エタノールアミン)、モノ-、ジ-、或はトリ-(プロパノールアミン)、メチルエタノールアミ

ン、ジメチルエタノールアミン等のアルコールアミンや、モルホリン、N-メチルモルホリン等がある。

そして、上記重合体に於ては、親水性構造部分となるモノマー単位の比率が特に重要である。つまり、カルボキシル基、スルホン酸基、或は硫酸エステル基等の親水性構造部分となるモノマー単位の重量比が略々、40重量%を超えると、その重合体の顔料粒子に対する吸着性が低下して顔料粒子の分散安定性を悪化させる。逆に2重量%以下になると重合体自身の水性液体への溶解性が低下して、この重合体が顔料粒子と共に水性液体中で凝集したり、沈降するようになる。そこで、上記重合体に於ける親水性構造部分の比率として更に好ましい処は、重量比で約25~40%と見られる。

又、この重合体は、その分子量が低過ぎると顔料粒子の分散安定性に寄与しないし、逆に、高過ぎるときには、記録液自体の粘度を上げ過ぎ(例えば、20 cps以上)る傾向にある。従って、本発明に於ては、この重合体の分子量の

範囲として、約5,000~100,000が望ましい。

斯かる重合体は、以下の如き方法に従って製造することができる。例えば、必須モノマー成分を所定の割合で混合し、溶液重合法、乳化重合法、懸濁重合法等の方法(必要に応じ、重合調節剤を用いて)により所望の分子量の重合体を合成する。これとは別に、酸無水物、エステル、ニトリル基、水酸基、等を含む重合体を最初に作り、引続きこれ等の基を加水分解、けん化、硫酸エステル化又は、スルホン化することにより事後的に重合体中にカルボキシル基等を導入させる方法もある。

又、アミン塩等にする時期はいかなる時でも良く、例えば、前記カルボン酸モノマーのアミン塩を用いて重合する方法、重合後、或は、加水分解等の後にアミン等を加える方法、或は、顔料粒子と混合した後アミン等を加える等、何れの方法をも採用できる。

上記、重合体(分散剤)の合成例としては、

例1. 攪拌器付きの四つ口セパラフルフラスコに

水50部、イソプロピルアルコール30部、ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム0.5部、過硫酸アンモニウム0.5部を混合し60°Cに加熱する。別にスチレン5部、アクリル酸9部、メチルメタクリレート5部の混合液を分液ロートに入れ60分かけて徐々に滴下する。滴下終了後温度を80°Cに上げ更に2時間攪拌して重合を行なった。得られた重合体の分子量は約5万であった。

例2. 例1と同様のフラスコにメチルメタクリレート8部、スチレン5部、イタコン酸15部、ベンゾイルパーオキサイド1部、ラウリルメルカプタン1部、ジアセトンアルコール50部、エチレングリコール20部を仕込み窒素ガスを通じながら6時間重合した。得られた重合体の分子量は約3万であった。以下例2と同様の方法で下記の原料から重合体を得た。

例3	スチレン	10 部
	アクリロニトリル	5 "
	メタクリル酸	10 "
	ヒドロキシエチルメタアクリレート	5 "
	アゾビスイソブチロニトリル	1 "
	エチレングリコールモノメチルエーテル	19 "
	ブタノール	50 "

(分子量; 約1万5千)

例4	ビニルナフタレン	10 部
	ジメチルアミノメタアクリレート	5 "
	無水マレイン酸	10 "
	メチルエチルケトンパーオキサイド	1 "
	イソプロピルアルコール	60 "
	トリエタノールアミン	14 "

(分子量; 約2万)

例5	スチレン	10 部
	無水マレイン酸	10 "
	ジエタノールアミン	2 "
	アゾビスイソブチロニトリル	1 "
	エチルアクリレート	5 "
	エチルカルビトール	23 "
	エチレングリコールモノメチルエーテル	50 "

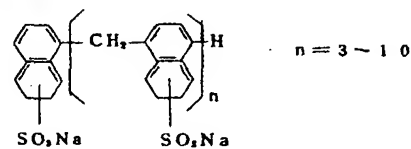
(分子量; 約3万)

例6	スチレン	5 部
	イタコン酸モノエチルエステル	5 "
	メタクリル酸	10 "
	2-エチルヘキシルメタクリレート	10 "
	ベンゾイルパーオキサイド	1 "
	チオリンゴ酸	1 "
	n-プロピルアルコール	48 "
	エチレングリコール	20 "

(分子量; 約8千)

更に、次の如き高分子分散剤も使用可能である。

a ナフタリンスルホン酸ナトリウムホルマリ
ン縮合物



商品名; デモール N (花王アトラス㈱)

b ジイソブチレン-マレイン酸共重合体

商品名; デモール Ep (花王アトラス㈱)

c ポリアクリル酸ソーダ

商品名; ノブコサント R (サンノブコ㈱)

d ポリアクリル酸アンモニウム

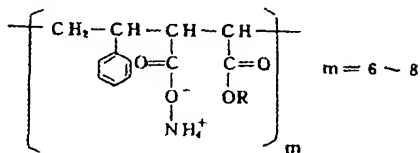
商品名; ノブコサント RFA (サンノブコ㈱)

e ポリメタクリル酸ナトリウム

商品名; ブライマール 850 (ローム & ハース㈱)

f スチレン-マレイン酸共重合体 (モノエ
テルアンモニウム塩)

商品名; SMA レジン 1440H (アルコケミカル
㈱)



g PEG

商品名; マクロゴール 1500 (日本油脂㈱)

h PHG-PPGブロックポリマー

商品名; ユニループ 40DP-50B

(日本油脂㈱)

本発明の記録液に於て、上記高分子分散剤の
使用量は、顔料 100 重量部当り、略々、5 ~

300 重量部、更に好ましくは、略々、10 ~
150 重量部の範囲とされる。斯かる範囲の上限
を超えるとインクの色濃度が低下したり、イン
クの粘度が適正値に保たれなくなると言つた不
都合がある。又、上記下限を下まわるときには、
顔料粒子の分散安定性が不良になる。

本発明の記録液に使用される水性媒体成分と
しては、水或いは水と水溶性有機溶剤が挙げら
れる。

水溶性有機溶剤としては、例えばメチルアル
コール、エチルアルコール、n-プロピルアル
コール、iso-プロピルアルコール、n-ブチ
ルアルコール、sec-ブチルアルコール、tert-
ブチルアルコール、iso-ブチルアルコール、
フルフリルアルコール、テトラヒドロフルフリル
アルコール等のアルコール類; アセトン、メチ
ルエチルケトン、ジアセトンアルコール等のケ
トン又はケトアルコール類; モノエタノールア
ミン、ジエタノールアミン、トリエタノールア
ミン等のアルコールアミン類; ジメチルホル

ムアミド、ジメチルアセトアミド等のアミド類；テトラヒドロフラン、ジオキサン等のエーテル類、酢酸エチル、安息香酸メチル、乳酸エチル、エチレンカーボネート、プロピレンカーボネート等のエステル類、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、プロピレングリコール、テトラエチレングリコール、ポリエチレングリコール、グリセリン、1,2,6-ヘキサントリオール、チオジグリコール等の多価アルコール類；エチレングリコールモノメチル（或いはエチル）エーテル、ジエチレングリコールモノメチル（或いはエチル）エーテル、プロピレングリコールモノメチル（或いはエチル）エーテル、トリエチレングリコールモノメチル（或いはエチル）エーテル、ジエチレングリコールジメチル（或いはエチル）エーテル等のアルキレングリコールから誘導された低級アルキルモノ或いはジエーテル類；ピロリドン、N-メチル-2-ピロリドン、1,3-ジメチル-2-イミダゾリジノン等の含窒素

環状化合物等を挙げることができる。

これらの多くの溶剤の中でも、記録液に要求される種々の特性の改良の為に、好ましくは多価アルコール類、或いは多価アルコールのアルキルエーテル類、より好ましくはジエチレングリコール等の多価アルコール類が挙げられる。これらの成分の含有量は、記録液全重量に対して、重量パーセントで、一般には10～70%そして物性値の温度依存性を小さくする為に好ましくは20～50%の範囲とされる。

又、この時の水の含有量は、記録液全重量に対して、重量パーセントで、5～90%、より好ましくは10～70%、更に好ましくは20～70%の範囲内とされることが望ましい。

次に本発明に於いて、顔料分散安定性向上ばかりでなく吐出安定性、定着性の向上に好しく用いられる非イオン性界面活性剤としては次のものを挙げることができる。

エーテル類；ポリオキシエチレンオレイルエーテル、ポリオキシエチレンラウリルエーテル、

ポリオキシエチレンステアリルエーテル、ポリオキシエチレンセチルエーテル、ポリオキシエチレントリデシルエーテル等、市販品としてはエマルゲン108、エマルゲン210、エマルゲン320P、エマルゲン404、以上花王アトラス製、ノニオンE-208、ノニオンP-208、ノニオンS-215、ノニオンK-204、ノニオンT-208S以上日本油脂製。

アルキルフェノール型；ポリオキシエチレンニルフェノールエーテル、ポリオキシエチレンオクチルフェノールエーテル等、市販品としては、エマルゲン810、エマルゲン910以上花王アトラス製、ノニオンNS-202、ノニオンNS-206、ノニオンHS-208以上日本油脂製、

エステル型；ポリエチレングリコールモノラウレート、

ポリエチレングリコールモノステアレート、
ポリエチレングリコールモノオレエート、
ポリエチレングリコールジステアレート、

ポリオキシエチレンステアレート、

ポリオキシエチレンオレエート、

ステアリン酸モノグリセライド、オレイン酸モノグリセライド等、市販品としてはエマノーン3199、エマノーン3299、エマノーン1112、マジ45、アトムル84、アラツセル161、以上花王アトラス製、

ノニオンL-2、ノニオンS-2、ノニオンO-4、ノニオンT-4、以上日本油脂製、

ソルビタンエステル型；ソルビタンモノラウレート、ソルビタンモノパルミテート、ソルビタンモノオレエート、ソルビタンジステアレート、

ポリオキシエチレンソルビタンモノラウレート、

ポリオキシエチレンソルビタンモノパルミテート、

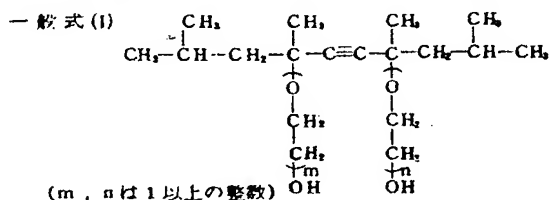
ポリオキシエチレンソルビタントリオレエート、

ポリオキシエチレンソルビタンモノステアレ

ート、

ポリオキシエチレンソルビタントリステアレート、等、市販品としてはスパン20、スパン40、スパン80、エマゾール320、トウイーン20、トウイーン40、トウイーン60、トウイーン65、トウイーン85以上花王アトラス製、ノニオンLP-20R、ノニオンPP-40R、ノニオンSP-60R、ノニオンOT-221、ノニオンLT-221、以上日本油脂製、その他オキシエチレン・オキシプロピレンブロックポリマー、市販品としてエマルゲンPP-150、PP-250、以上、花王アトラス製、プロノン102、プロノン105以上日本油脂製。

分子内レアセチレン結合を有する第3アルコールのエチレンオキシド付加体〔一般式(I)〕



従来公知のものを含めて各種の有機或は無機顔料が全て使用できる。例えば、アゾ系、フタロシアニン系、キナクリドン系、アンスラキノン系、ジオキサジン系、インジゴ系、チオインジゴ系、ペリノン系、ペリレン系、イソインドレノン系、酸化チタン、カドミウム系、酸化鉄系、カーボンブラック等の顔料を挙げることができる。これらの顔料は、記録液中での粒径が略々数百ミクロンから数ミクロン程度の微粒子状となり、好ましくは、製造直後の水性ペーストであるのが使用に適する。尚、この顔料の記録液中での好適濃度は、その着色力及び記録液粘度への影響を考慮すると、記録液全重量に対して、重量%で略々3～30%の範囲である。

又、本発明の記録液には上記の必須成分のほか、従来公知の各種添加剤、例えば、塩類、合成及び天然樹脂、各種染料等を併用することもできる。

本発明の記録液は叙上の各成分を主体として組成され、その調製には、各種の方法が採用で

市販品としてはアセチノールEL、アセチノールEH、以上、川研フアインケミカル製

以上の非イオン性界面活性剤の中から特に好ましく用いられるものとしては、

ポリオキシエチレンオクタルフエノールエーテル、

ポリオキシエチレンノニルフエノールエーテル、ソルビタンモノラウレート、ソルビタンモノパルミテート、ソルビタンモノオレエート、ソルビタントリステアレート、ポリオキシエチレンソルビタンモノラウレート、ポリオキシエチレンソルビタンモノパルミテート、ポリオキシエチレンソルビタンモノステアレート、

一般式(I)で示される非イオン性界面活性剤等が挙げられる。

上記、非イオン性界面活性剤の本発明に於る使用量は顔料100重量部に対し0.1～5.0重量部であり、好ましくは0.1～2.5重量部、特に好ましくは0.5～2.0重量部である。ところで本発明の記録液を組成する為の顔料としては、

きる。例えば、上記各成分を配合し、それをボールミル、ローミル、スピードラインミル、ホモミキサー、サンドグラインダー等を用いて混合粉碎する方法を採用する。

尚、顔料の分散工程は、できるだけ顔料が高濃度の状態に於て行ない、分散処理の後、これを水性液体で希釈して記録液の粘度は最終的に約1～20 cps、好ましくは約3～10 cpsに調整される。

このようにして調整した記録液は、低粘度域に於て、長期間保存した場合にも、顔料粒子が凝集したり、沈降することがない。そして、この記録液は、

(1) 広範囲の記録液吐出条件（圧電素子の駆動電圧、駆動周波数、吐出オリフィスの形状と材質、吐出オリフィス径等）にマッチングした液物性（粘度、表面張力、電導度等）を有している。

(2) 長期保存に対して安定でインクジェット装置の目詰まりを起さない。

- (3) 被記録材（紙、フィルム等）に対して定着が速く且つ確実であつて、しかもドットの周辺が滑らかでにじみがない。
- (4) 形成された記録画像の色調が鮮明で濃度が高い。
- (5) 形成された記録画像の耐水性・耐光性が優れている。
- (6) 記録液周辺材料（収容器、連結チューブ、シール材等）を侵さない。
- (7) 臭気、毒性が少なく、引火性等の安全性に優れたものである等の諸特性を備えている。
- ここで実施例を示して本発明を更に詳説する。

実施例 1

銅フタロシアニンブルー顔料	10重量部
高分子分散剤（合成例1で得た重合体）	15 "
ジメチルアミノエタノール	1 "
一般式(1)の非イオン性界面活性剤	0.8 "
（アセチノールEH：川研フラインケミカル製）	
エチレングリコール	10 "
水	19 "

が、いずれの条件でも終始安定した高品質の記録が行えた。

(T₃)吐出応答性：2秒毎の間歇吐出と3カ月間放置後の吐出について調べたが、いずれの場合もオリフィス先端での目詰りがなく安定で均一に記録された。

(T₄)記録画像の品質：下表列記の被記録材に記録された画像は濃度が高く鮮明であつた。室内光に6カ月さらしたのちの濃度の低下率は1%以下であり、また、水中に1分間浸した場合、画像のにじみはきわめてわずかであつた。

(T₅)各種被記録材に対する定着性：下記の被記録材で印字10秒後印字部を指てこすり画像ずれ・ニジミの有無を判定した、いずれも画像ずれ・ニジミ等がなく優れた定着性を示した。

被記録材	分類	メーカー
銀環	上質紙	山陽国策パルプ㈱
セブンスター	"	北越製紙㈱
白牡丹	中質紙	本州製紙㈱
東洋汙紙64	ノンサイズ紙	東洋汙紙㈱

上記全成分をボールミルで約18時間分散した後、顔料濃度が約10%になる迄、エチレングリコール5部と水40部を加え、更に30分間分散を行い青色の顔料分散液を得た。更に、この分散液を遠心分離機にかけて、分散していない粒子を除去したものを記録液とした。

この記録液を用いて、ビエゾ振動子によつて記録液を吐出させるオンデマンド型記録ヘッド（吐出オリフィス径50μ・ビエゾ振動子駆動電圧60V、周波数4KHz）を有する記録装置により、T₁～T₅の検討を行なつたところ、いずれも良好な結果を得た。尚、上記吐出オリフィスの口径としては略々、10μ～200μの範囲から設定することができる。

(T₁)記録液の長期保存性：記録液をガラス容器に密閉し、-30℃と50℃で6カ月間保存したのちでも不溶分の析出は認められず、液の物性や色調にも変化がなかつた。

(T₂)吐出安定性：室温、5℃、40℃の雰囲気中でそれぞれ40時間の連続吐出を行なつた

実施例 2

実施例1と同様の方法により次の組成の記録液A～Fを調合し、又実施例と同様にT₁～T₅の検討を行なつた。これらはいずれも記録性に優れていた。

又、記録ヘッド内の記録液に熱エネルギーを与えて蒸着を発生させ記録を行なうオンデマンドタイプのマルチヘッド（吐出オリフィス径35μ、発熱抵抗体抵抗値150Ω、駆動電圧30V、周波数2KHz）を有する第4図の記録装置を用いて実施例1と同様の検討を行なつたが、優れた結果を得た。

記録液 A

カーボンブラック	10重量部
高分子分散剤（合成例3で得た重合体）	15 "
ジメチルアミノエタノール	1 "
ポリオキシエチレンオクタフルエノールエーテル	1 "
（エマルゲン810、花王アトラス製）	
エチレングリコール	10 "
水	19 "

上記全成分をボールミルで約15時間分散した後、顔料濃度が約10%になる迄、エチレングリコール10部と水35部を加え更に30分間分散を行ない黒色の顔料分散液を得た。更に、この分散液を遠心分離機にかけて分散してない粒子を除去したものを記録液Aとした。

記録液B～F

下記組成のものを記録液Aと同様に調整した。

記録液B

銅フタロシアニンブルー	15 重量部
高分子分散剤(合成例1で得た重合体)	15 "
モルホリン	1 "
ソルビタンモノラウレート (スパン20、花王アトラス製)	0.5 "
エチレングリコール	5 "
ジエチレングリコール	10 "
水	14 "

顔料濃度調節液はジエチレングリコール10部、水30部

と水30部

記録液E

カーボンブラック	18 重量部
高分子分散剤(合成例5で得た重合体)	20 "
ジメチルアミノエタノール	1 "
ポリオキシエチレンノニルフェノールエーテル (エマルゲン910、花王アトラス製)	0.6 "
エチレングリコール	20 "
水	10 "

顔料濃度調節液はエチレングリコール10部

と水40部

記録液F

ベンジンイエローG	10 重量部
高分子分散剤	5 "
ナフタリンスルホン酸ナトリウム・ホルマリン縮合物 (デモールN、花王アトラス製)	
ポリオキシエチレンソルビタンモノステアレート1 (トウイーン65、花王アトラス製)	
グリセリン	5 "
エチレングリコール	10 "

記録液C

銅フタロシアニンブルー	8 重量部
高分子分散剤(合成例6で得た重合体)	10 "
N-メチルモルホリン	1 "
ソルビタントリステアレート (スパン65、花王アトラス製)	0.1 "
エチレングリコール	10 "
水	19 "

顔料濃度調節液はエチレングリコール1部、

水40部

記録液D

キナクリドン	8 重量部
高分子分散剤(合成例4で得た重合体)	15 "
ジメチルアミノエタノール	1 "
ポリオキシエチレンソルビタンモノラウレート	2 "
(ノニオンLT-221、日本油脂製)	
エチレングリコール	2 "
ジエチレングリコール	8 "
水	20 "

顔料濃度調節液はジエチレングリコール5部

と水5重量部

顔料濃度調節液はエチレングリコール5部と

水30部

4. 図面の簡単な説明

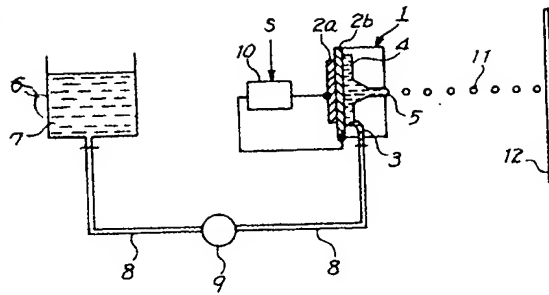
第1図及び第2図は夫々インクジェット記録装置の模式図である。

第3-a図、第3-b図は別の記録装置の要部縦断面図および同軸断面図である。第4図は第3-a図、第3-b図に図示したヘッドをマルチ化したヘッドの外観斜視図である。

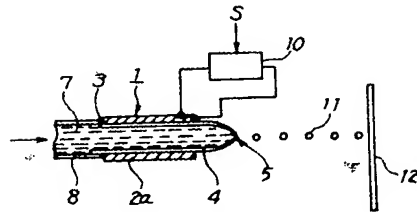
但し図において

1…記録ヘッド、2a…ピエゾ振動子、2b…振動板、3…流入口、4…腔室、5…吐出オリフィス、6…貯蔵タンク、7…記録液、8…供給管、9…中間処理手段、10…信号処理手段、11…液滴、12・25…被記録材、S…記録信号、14…液室、15…発熱ヘッド、16…保護層、17…電極、18…発熱抵抗体層、19…蓄熱層、20…基板、26…溝である。

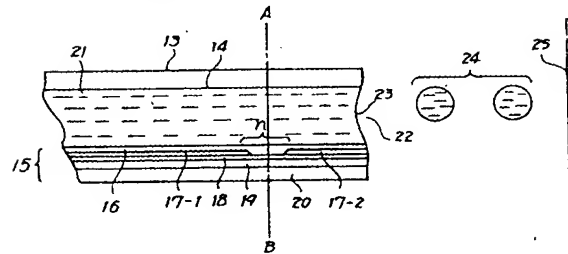
第 1 図



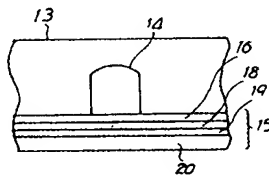
第 2 図



第 3-a 図



第 3-b 図



第 4 図

